

# しよくせい 座光寺の植生

植物が地表を覆っている様や地域の植物の全体を“植生”といいます。植生をみることによって、地域の自然の姿がみえてきます。座光寺にはどんな植生があるのでしょうか。

## 植生

座光寺の山林は人の手が入った林で、自然のままの「天然林」は全くありません。



座光寺富士の頂上より、北方の南大島川上流の谷をみる。ほとんどがヒノキ植林地である。手前の山林が座光寺のもので、正面の山は高森町の山林。



落葉広葉樹林の景観。西の沢を西方からみる。コナラ、クヌギ、アベマキ、クリ、カスミザクラなどの二次林。

コナラ、クヌギ、アベマキ、クリ、カスミザクラなどの雑木林です。



二樹林の林内の様子。コバノトネリコ、アオハダ等の中間の亜高木などがみられる(左:南本城の北側)。林縁にはヤマツツジ、ナツハゼ、ヤマウルシ等の灌木が生える(右:せんげん尾根)。

大門原の上の山地はおよそ2/3がヒノキの植林地、1/3が伐採後に自然に生えてきたアカマツ林です。雑木林はほとんどありません。ヒノキ林は大きいもので樹齢40年、緑資源機構\*が植えたものです。

小学校や南本城の下に広がる断層崖の林も二次林(自然林を伐採した後に二次的にできる林)です。南本城の一部にはヒノキの植林地が、沢筋にわずかスギ林があります。その他の断層崖はコナラ、クヌギ、アベマキ、クリ、カスミザクラなどの雑木林です。

## 果樹園

果樹園、水田、水田の土手、天竜川の堤防なども人工的な植生です。座光寺の平らなところは人家集落と農耕地に覆われています。これら農耕地は特定の植物が人の手によって優先しています。ある意味特殊な植生といえるでしょう。

果樹園はリンゴ、ナシ、モモなどに覆われています。



万才地区のモモ園(左)とリンゴ園(右)

## 水田

水田もイネという種類の植物が優先する植生ということが出来ます。中河原地区の天竜川や土曾川、南大島川沿いに分布しています。土手は構造改善事業が済んだところは植生が貧弱です。それに対して済んでいないところは休耕田、放棄田が多く、土手の植生も荒れ、灌木なども入っています。



中河原地区の水田と養魚場

## 天竜川の植生

川の堤防は人為的に造られた草原です。堤防は定期的な草刈によってシバ・アカツメクサ・コウゾリナなどの草丈の低い植物が中心です。天竜川の河川敷は砂地で乾燥に強いカワラヨモギ・ビロードモズイクナなどの植物が多いところです。近年は洪水が少ないのでニセアシアなどの樹木が増えてます。



天竜川と土曾川合流点のオギ群落、アレチウリが繁茂している(左)。天龍の増水が河原の植生に影響を与える(右)。

## 潜在自然植生は何？

もし、座光寺地区に人が住んでいなくて、自然のままの植物が生えていたら、どんな植生なのでしょう。今は無い自然のままの植物が生えている様を潜在自然植生といいます。このことを調べるのは大変に難しいのですが、現在残っている自然に近いと思われる植生から推定することができます。



高岡の佐野氏神の森。アラカシとシラカシがある。このような森が潜在自然植生の推測根拠となる。

このようなところは社寺林にみられることがあるのですが、座光寺付近にはあまりありません。松尾の八幡神社は比較的近いでしょうか。また天龍峡の座や急傾斜地の照葉樹林は自然のもので、上郷野底川上流のかえる池周辺にも天然のモミ林が残っています。また、植物生態学で日本の照葉樹林は暖かさの指数で分布範囲を計算できることが知られています。

世界の気候とその植生の関係は年平均気温と年間降水量によっておおよそ決まります。座光寺の気象観測資料はありませんが、飯田測候所はあまり遠くありませんか

ら、そのデータこそそのまま使えます。それによるとここ10年の年平均気温は13℃、年降水量は1615mmでした。これらのことを総合すると、座光寺の潜在自然植生は標高550m付近までは照葉樹林、その上は落葉広葉樹林と推定されます。



アカマツ林内に生えてきたシラカシの幼木。2000年12月、せんげん尾根にて。

## 進入してきたカシ類

せんげん尾根や小学校下の雑木林をみると、林内にアラカシ、シラカシなどのカシの幼木がたくさん生えています。中には15mほどになっているものもあります。このまま大きくなれば、断層崖はカシの木に覆われ、常緑樹林になるでしょう。また大門原の上はクリ、ナラ類、シデ類、ケヤキなどの落葉広葉樹林にモミなどが混じる林になるものと思われます。また沢筋にはシオジなどが混じるでしょう。

(小林正明)

\*緑資源機構：農林水産省所管の独立行政法人。森林造成や林道保全事業を行っていたが、国の外郭団体見直しや談合発覚などにより、2008年4月に廃止になった。

豆知識

暖かさの指数

年間の降水量がある程度ある地方において、植物が成長する温度5℃以上がどのくらいあるかで、その地方に生育する植物が決まるというものです。計算は月平均気温5℃以上の温度を足し算します。例えば4月の平均気温が14℃とします。14-5=9です。このような9の値を一年間合計したものをW1とすると、そこに生える植生は次のようになります。

0<W1≤15, 寒帯, ツンドラ帯,	15<W1≤45, 亜寒帯, 針葉樹林帯,
45<W1≤85, 冷温帯, 落葉広葉樹林帯,	85<W1≤180, 暖温帯, 常緑広葉樹林帯,
180<W1≤240, 亜熱帯, 亜熱帯多雨林帯,	W1>240, 熱帯, 熱帯多雨林帯.

座光寺では標高600mのW1はおおよそ85です。これは落葉広葉樹林と常緑広葉樹林の境目になります。しかし、冬の最低気温が低いので、標高550mが落葉樹と常緑樹の境になるだろうと予想されます。